

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2014年 1月1日(水)

地域企業紹介 28

株式会社ノイズ研究所

日本のナンバーワン企業から 世界のリーディングカンパニーに

株式会社ノイズ研究所の藤垣正純社長を相模原市千代田にある本社工場に訪ねました。ノイズ研究所はコンピュータ、自動車、家電などを制御しているCPUが外部の電氣的な雑音＝ノイズによってどのような影響を受けるかを評価するための装置(ノイズ試験器や測定器)を開発製造している。あまり知られていないが、自動車や家電製品は研究開発や生産の段階でノイズ試験器を使ってノイズを発生させ、その影響で製品に誤作動が生じないか検査されている。

同社の顧客はコンピュータ、電子部品、産業用機器、自動車、家電を製造している国内外のメーカーなど多岐にわたる。設立当初の製品は大型コンピュータメーカー向けだったそうだ。1970年代、世界のコンピュータ業界の巨人IBMに負けじと日立、三菱、日本電気、東芝、沖電気、富士通などの大手電機メーカーが国産大型コンピュータの開発にしのぎを削っていた時代だ。その後マイクロコンピュータの普及と共に家電や産業用機器へと市場を広げ、近年はコンピュータによる制御が著しく進んでいる自動車メーカーやその関連企業も主要な顧客となっている。

納入先は世界47か国、5,000社以上、国内のシェアは約60%に達している。海外は韓国、台湾、中国などアジア地域が中心で同社売上の約25%を占めている。競合は国内にはほとんど無く、専らスイス、ドイツなどの海外企業。

同社は旧日電公社武蔵野研究所の研究者だった初代社長が1975年に三鷹市で創業。藤垣社長は創業期からのメンバーであり1991年に四代目の社長に就いている。

(2面につづく)

株式会社ノイズ研究所

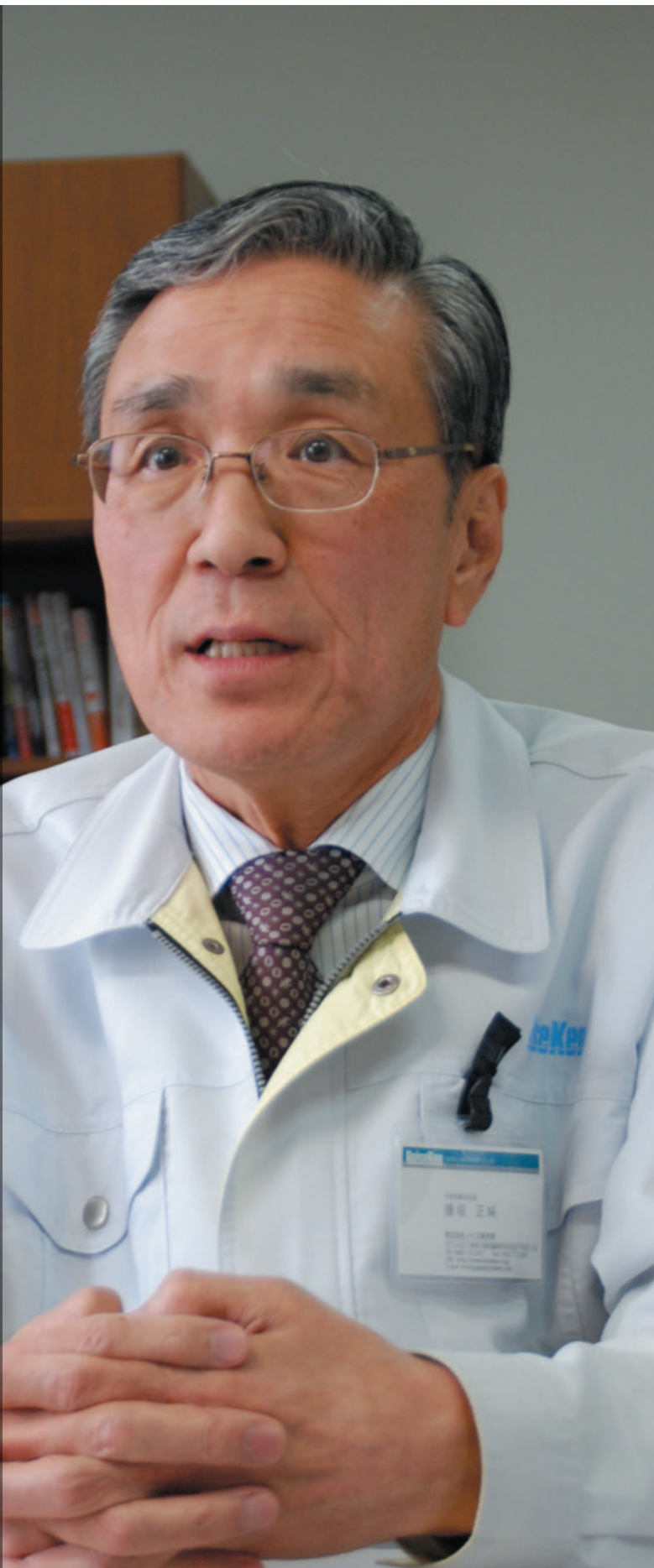
代表取締役社長 藤垣 正純

所在地：相模原市中央区千代田1-4-4

従業員数：95名 資本金：9,500万円

売上高：19億円(平成24年度実績)

事業内容：E M C試験にかかわる各種試験器の開発・販売、修理・校正や受託試験サイトの運営など、試験器をトータルでお使いいただく方法を提案



藤垣社長の経歴は面白く、大学は文学部日本文学科で最初の職業は繊維関係の業界紙記者だったそうだ。そして、東芝系のモーター商社の営業職を経て、27才の時、創業間もないノイズ研究所に入社している。入社から38年、社長になってから22年。社長就任直後には主要メンバーがごっそり抜けて競合会社を立ち上げたり、労働争議やバブル崩壊、リーマンショックなど何度も危機を経験したが専門的な知識と高い技術力を持つ社員と共にこれを乗り越え、この分野における日本のナンバーワン企業として着実な歩みを続けている。

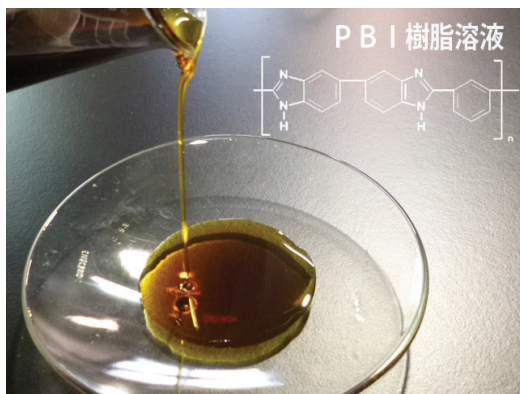
今後の成長に向け二つのことを考えている。一つ目がアジアを中心とした海外市場の開拓。製造業の海外展開に伴い国内市場

は縮小の一途であり、さらなる成長を目指すには海外市場を取り込むことが不可欠となる。そのためには高い品質を保ちつつ中国製にも負けない低価格を実現しなければならず、いろいろな試行錯誤が続けられている。二つ目がノイズ試験の自動化への取り組み。現在の装置はノイズを発生させる装置であり、ノイズ試験機器の操作と影響評価は顧客のスタッフが付いて行っている。将来はノイズの発生から影響評価までを技術者が付いていなくても自動的に行えるシステム装置の開発を目指している。これが実現すれば飛躍的な成長を遂げることになるだろう。

相模原から世界のリーディングカンパニーが誕生する日は近い。

世界最高クラスの耐熱樹脂 PBI (ポリベンゾイミダゾール) の特性を生かすために

佐藤ライト工業株式会社



SIC内に新事業推進センター(相模原)を置く佐藤ライト工業株式会社(本社:三重県津市)は樹脂加工に関する一貫した製造技術を強みに、顧客の品質・コスト・納期の多様なニーズに応えることをモットーとした企業です。汎用のプラスチック製品はもとより、エンブラ材料・成形、超音波溶着、光学設計といった分野でさらなる技術革新に挑んでいます。

新事業推進センターの主な事業は新しい素材として注目されているスーパーエンブラの中の一つ、PBI(ポリベンゾイミダゾール)の研究・開発と販路開拓です。高耐熱性の他、電気特性、耐溶剤性などの特性を多く持ち、既存の素材にある課題を

PBIで解決し、一方ではPBIの用途分野の拡大も積極的に行っています。特に燃料電池や半導体関連ではPBIの特性が大いに活かせる可能性を有し、新事業推進センター内でも注力的に研究・開発を進めています。

佐藤ライト工業新事業推進センターの志賀亮彦マネージャーは研究・開発と顧客開拓を兼務するセンターの責任者です。「最近ではPBIに関する引き合いも増え始めています。これからも積極的に開発、開拓に努め、特に相模原近隣の企業との関係構築を意識しながらPBI事業をさらに進展させていきます。」とこれからの意気込みについてお話しくださいました。

新事業推進センターのスタッフは志賀マネージャーを含む4名が技術、営業面でそれぞれの担当業務を行っています(関連企業である有限会社MFCテクノロジーの2名も常駐)。佐藤ライト工業は設立以来、プラスチック成型加工の技術を高め続け、多種多様な分野への進出を重ねてきました。そして今、大きな可能性を秘めたPBI事業に対して、全社から大きな期待が寄せられています。

佐藤ライト工業株式会社
SIC-2 603
TEL: 042-770-9476 FAX: 042-770-9489
URL: <http://www.sato-gr.co.jp/>

HISTORY of SIC

証言で綴るSICの歴史

～ SIC 経営塾～ 株式会社浜銀総合研究所 取締役・経営コンサルティング部長 寺本 明輝（明るく輝く）

現在開講中の2013年度、第12期SIC経営塾は、今年2月に13名の塾生による事業構想の発表をもって最終回を迎えます。SIC-2がオープンした2002年に第1期SIC経営塾がスタートして以降、本年度で109名の塾生にご参加いただきました。

12年間にわたりSIC経営塾のコーディネーターを務め続けることが出来たのは、SICの中嶋社長はじめ歴代社長、強力・協力スタッフの中村様、飯山様、本事業の協賛機関の皆様、そして多くの塾生の皆様のご支援の賜物であり、本紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

さて12年前、SICの当時の役員、幹部の方が弊社を訪れ、「より実践的な経営塾を継続的に開催し、地域の経営者、幹部のネットワークを構築したい」といったSIC経営塾開講の目的や意図をお話いただきました。

当時40代前半のコンサルタントである私をコーディネーターに選定するのは、SICもさぞかし勇気があったことだと思います。SIC自体も、やはりベンチャーです(笑)。

早速、その期待に応えるべく経営塾のシラバスを練り、テキストや資料等の準備に入りました。そして、2002年6月12日、企業経営者8名の塾生のもと第1期SIC経営塾が開催されました。

しかし、①カリキュラムが水曜日の夜と土曜日の午後を使った全17回と欲張った内容であったこと、②各塾生の個別のニーズに全て応えることができなかったこと、の理由により欠席者が出るなど、想定通りに進まない事態も幾度か起こってしまいました。自宅ま

SIC 経営塾

「ニュービジネスリーダー」育成セミナー



での約2時間の帰路、ぐったり疲れた身体を電車で揺らしながら頭を悩ましたことを思い出します。

その後は、期を重ねるごとに、合宿の開催時期、講義の進め方などを工夫し、また講義資料としてパワーポイントを1,000枚程使用しますが、その内容も每期、経済環境や参加者の状況に応じて見直し、内容も少しずつ進化させてきました。

SIC経営塾にご参加いただきました塾生は、役職で見ると「社長が3割、役員が3割、管理職が4割」、業種では「製造業が7割、非製造業が3割」。組織規模では「ベンチャー企業含む中小企業」が中心となっています。また年代は、30代から60代と幅広く、女性経営者も5名のご参加をいただきました。このように、多様性、異質性を持った人材の集まりが、SIC経

営塾の一つの特長です。

各期の塾生間では同期会が行われ、利害を超えて共通の悩みを話し合われたりしています。また、2012年3月10日には、過去の塾生が一度に集まり、パネルディスカッションや懇親会などによるSIC経営塾10周年のイベントも開催することができました。

過去にご参加いただいた塾生から、「社長に就任しました」「黒字転換できました」、あるいは「社長と上手くいなくて…」など様々な報告やご相談をいただくと、とても嬉しく思います。

当初の3つの目的である「実践に活かす」「継続的開催」「ネットワークづくり」の実現に向けて、SIC経営塾のつながりが広がっていることをあらためて実感しています。

山本のめしやレポート

自然派 ワインバル 「ナナフク」

開店ホヤホヤのワインバルに行ってきました。橋本駅北口から徒歩7分ぐらいでしょうか。呉服屋さんを大改装した店舗はアンティークな照明や建具が随所に使われ、とてもいい感じです。

橋本駅北口にある「カフェこたつ」のオーナーが出店したお店です。

オール480円※のタパス(小皿オードブル)、自家製ソーセージ、バーニャカウダなどお料理は多彩。ワインもフランス産を中心にたくさん揃っています。

ご家族、友人、同僚と楽しくやりましょう。

場所 相模原市緑区橋本3-19-15
Dinner 17:00～24:00 TEL/FAX 042-810-8315

注:※税抜きです。



お店の外壁

ワインとタパス(ニンジンとオレンジのラベ)

茨沼店長とお店の様子



「子どもワークショップ」体験！はんだごてライトレーサー作り

日付:平成26年1月25日(土)9:30-12:30

会場:さがみはら産業創造センター SIC-3 3F食堂

対象:小学校5・6年生 定員:10組

費用:1組 3,000円(キット代2,000円を含みます。)

「子どもワークショップ」体験！親子で作ろう！ドライフラワー

日付:平成26年3月8日(土)9:30-12:30

会場:さがみはら産業創造センター SIC-3 3F食堂

対象:小学校5・6年生 定員:10組

費用:1組 3,000円(キット代2,000円を含みます。)

JAPAN×TAIWAN GREEN ARCHITECTURE BUSINESS MATCHING

JPN

TAW

Asia
Market

アジア市場を目指す、 日台 環境・建築 ビジネスマッチング

<第1回>

日 付:平成26年3月5日(水)～6日(木)

場 所:台北市内

募集企業:10社程度

対象となる分野

- 環境配慮型の建築材料・建築工法
- 省エネ機器・システム、I C T、発電、廃棄物処理などの環境関連機器

特にこのような目的の企業様にオススメです

- 台湾企業と連携してアジアへの進出を目指す企業
- 台湾での販売先やO E M、O D M先を探したい企業
- 台湾企業の環境配慮型建材や機器を購入し、日本や海外で販売したい企業

SIC 事業の報告

子どもワークショップ

第4回「音の不思議を体感しよう！ マイスピーカー」

平成25年10月12日(土)9組の親子が参加。その内7組が父親との参加でした。「音」をテーマに、さまざまな音を聴く実験を通して、音の不思議を解明し理解を深め、オリジナルスピーカーを制作しました。



The HINT 10 & 個別相談会

11月20日(水)に開催しましたミニセミナーには、15名の参加をいただきました。今回は、税理士の天野俊裕さんに会社の経理処理で一番身近な試算表について説明をいただきました。試算表を活用することで資金繰りをはじめとする色々な会社の経営判断に生かす事ができると好評でした。



南西フォーラム

ロボットビジネス研究会

11月27日(水)に開催した研究会では、37名の参加をいただき、第1部では、青山学院大学理工学部 教授 山口 博明 氏に協調性を持った関節駆動を行うロボットの先端的なお話を伺いました。また、第2部では、カワダロボティクス株式会社 主任技師 齋藤 元 氏に中小企業で導入できる双腕双眼ロボットのご説明をいただきました。



2014.1- SIC EVENT CALENDER イベントカレンダー

1月15日(水) 女性向け 仕事力UPセミナー

1月25日(土) 子どもワークショップ第6回

2月5日(水)～7日(金) テクニカルショウ ヨコハマ

2月26日(水)～28日(金) FC EXPO2014

3月5日(水)～6日(木) 日台 環境・建築ビジネスマッチング

3月8日(土) 子どもワークショップ第7回

編集後記

謹賀新年

旧年中は大変お世話になりました
本年もよろしくお願い申し上げます。



今年は午年。馬は「物事が」うま「くいく」「幸運が駆け込んでくる」など縁起のいい動物といわれています。午年は、上昇していたものが下降に、またその逆もある変動の年だそうです。前回の午年は平成14年(2002年)、欧州単一通貨ユーロが流通開始の年でした。国内では、今年は消費税の値上げが始まりますが、皆さんにとっていい1年になりますよう、S I C一同願っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

入居企業を募集してます。

SIC 空室情報 (2013 年12月17日現在) SIC までお気軽にお問合せください。

	部屋	空室数	賃料(月額)*
SIC-1	スモールオフィスA (23.6㎡)	2	61,900円
SIC-2	オフィス (50.2㎡)	2	149,600円
SIC-3	オフィスB(21㎡)	1	38,800円

*賃料・共益費込み(税別)



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>